第十四門 8 〇

明治三十五年七月

露國航海業造船奬勵法案
在オラツヂ領事ヶ進達之件

外務省

3-2039

0185

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六十三 官報掲載部送付

明治廿五年六月十六日接受

新聞掲載 濟

官報掲載

通商彙纂

在外公館

通商彙纂第三百九十八號掲載 濟

官報部送付濟

七月五日官報掲載

公信第七號

露國旅海并造船奬勵法案

譯文進達ノ件

明治廿五年七月三日發遣 報送第八五二號

露國旅海并造船奬勵法案譯文別冊ノ通及報告ノ旨ニ付閣議ニ付ス

右ハ閣議ニ付ス

明治廿五年五月五日

在ペテルスブルク 日本帝國領事 飯島亀太郎

外務大臣男爵 大隈重信殿

三十五年七月十八日編纂畢

3-2039

0186

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

100 通商

公信第七號報告書

露國商船製造及航海奬勵法案

露國商船航海事務会議ハ本年二月會長アレキサンドルミハイロヴチ大公殿下ノ起草ニ係ル内國造船事業ノ発達及之レニ附帯セル商船航海業ニ関スル奬勵法案ヲ調査審議シ遂ニ左ノ十箇條ヲ決定セリ而シテ大蔵大臣ハ會長殿下ノ希望ニ從ヒ之レヲ国議院ニ提出スル前ニ於テ遍ク各業者ノ意見批評ヲ徵スルノ目的ヲ以テ同法案ノ十箇條并ニ之ニ関スル立法ノ主義ヲ三月二十三日発刊ノ大蔵省週報ニ登載セリ仍テ其要領ヲ摘録スル左ノ如シ

在外公館

第一条　露國ニ於テ自國ノ材料ヲ用ヒテ製造シタル船舶ノ所有者ハ其船舶ヲ造船所ヨリ請取ルト同時ニ同船ヲ抵当トシテ無利息ヲ以テ政府ヨリ船舶実價ノ百分ノ五十ニ對スル貸下金ヲ受クルヲ得ヘシ而シテ該貸下金ハ二十ヶ年ノ期限ヲ以テ毎年同一ノ割合ニ據リ漸次之レヲ銷却スルモノトス又船舶ノ價格ハ大蔵大臣ニ於テ海軍省及會計検査院ト協議ノ上発布スル所ノ規則ニ基キ露國ニ於ケル船舶製造ノ豫定價格ニ準シ之レヲ調査シ而シテ其豫定價格ハ一ヶ年前之

3-2039
0187
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

101 通商

レタ公示スヘシ

但シ政府貸下金ハ之レヲ私立銀行ニ引渡ト為スヿヲ許ルサス

第二条　前条ノ貸下金ハ単ニ洋海航行流船ニ限リ之ヲ左附シ且ツ左ノ条件ヲ具備スルヿヲ要ス

(イ)　船舶製造ノ約束ヲ締結シタルトキ船主ニ於テ船舶番面并約款ヲ大蔵大臣ニ提出スル事

(ロ)　船舶ハ英国ロイド会社ノ規則ニ據リ一等船舶ノ名称ニ適合スル事

(ハ)　船舶ノ平均速力ハ六時間ノ試運転ニ於テ登簿噸数千噸以上ハ一時間十海里以上、千噸以下ハ九ノット以上会社ノ最低線即チ満載ノ場合ニハ海里ヲ航行シ得ル事

第三条　第一条及第二条ニ規定セル船舶ノ保険ハ其船舶ノ清算價格三分ノ二迄ハ政府自カラ保険ノ責ニ任シ船主ヨリ毎年其請算價格百分ノ二ヲ保険料トシテ上納セシムベシ而シテ船主ハ其保険ノ残額即チ三分ノ一ニ對シ私立銀行ト更ニ保険約束ヲ締結スルヿヲ得ベシ

註、船舶ノ清算價格トハ其都度清算ノ價格ヲ指示スルモノニシテ毎年元價格ノ百分五

在外公館

3-2039

0188

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ヲ政府ニ銷却スル割合ナルヲ以テ
其請求價格ハ順年追減スルモノ
ナリト雖モ本条ニ示ス所ノ保険ニ関
シテハ其請求價格ハ少クモ元價格
ノ半額ヨリ下ルヿカラサルモノトス

第四条　以上ノ第一条及第二条ニ規定ス
ル所ノ船主ハ國庫ヨリ該船舶カ航行中ニ
於テ消費セル露國產燃料代金ノ半額
ヲ補給トシテ受取ルヿヲ得ヘシ但シ燃料
ハ船舶カ露國ノ諸港ヨリ外國諸港間ニ
往復スルトキ蒸鑵運轉ニ要スル分ニ限リ
且ツ其消費高ハ該船ノ大小（第二条
（ハ）項）ニ據リ十海里若クハ八海里ノ速
力ヲ參酌シテ之ヲ定ム尤モ此ノ特典ハ船
舶カ露國ノ諸港ニ於テ登簿噸數四分
ノ三以上ノ輸出貨物ヲ積載スルカ若ク
ハ外國諸港ニ於テ露國ニ仕向ケラレタル登
簿噸數二分ノ一以上ノ貨物ヲ搭載シテ航海
スルトキノ場合ニ限リ之ヲ適用ス

第五条　第四条ニ掲ケル特典ハ若シ海ニ賃
スル露國諸港ヨリ外國ニ向ケテ輸送スル船舶
クハ外國ヨリ露國ノ諸港ニ向ケテ輸入スル船
ノ物品タラサルヿカラズ尤モ同上ノ船舶ニシ
テ黑海及アゾフ海諸港ヨリ波尔的海ノ
諸港ニ向フテ燃料、鑄鉄、生鉄、若クハ露國
產塩ヲ搭載スルモノニ對シテハ之ヲ均ク本条ヲ適

在外公館

3-2039
0189
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

103

用スルモノトス

第六条　第四条ニ基キ政府ヨリ船主ニ支拂フヘキ金額ハ前条ノ航路航行中消費セル燃料ノ雇運賃ノ為メニ該船舶カ消費セル燃料ノ産地、價格及数量ヲ明記シタル証書ニ基キ立証スルモノトス

出シタル証據書類ニ基キ立証スルモノトス

第七条　第一条、第三条、第四条及第五条ニ規定スル特典ハ特ニ露国臣民タル船主及露国臣民ニシテ資本主トスル名名会社及ハ証名組織ノ株式会社ニシテ其株式ハ法律上単ニ露国臣民ニ限リ所有シ得ヘキモノ等ニ

検査院長ハ証識ノ上之ヲ定ムヘシ

第七条　第一条、第三条、第四条及第五条ニ規定スル特典ハ特ニ露国臣民タル船主及露国臣民ニシテ資本主トスル名名会社及ハ証名組織ノ株式会社ニシテ其株式ハ法律上単ニ露国臣民ニ限リ所有シ得ヘキモノ等ニ

有スルヲ特ヘシ

第八条　本規則（第一条ヨリ第七条ニ至ル）ハ千九百三年ヨリ起算シ八年間効力ヲ有スルモノトス然レトモ此期限内ニ於テ前記ノ特典ヲ附與セラレタル船舶ハ爾船舶ニ掲ケタル日ヨリ向フ二十ヶ年間此特典ヲ享有スルノ権利ヲ有スヘシ

第九条　大蔵大臣ハ前条規定スル所ノ八ヶ年間期限経過後ト雖モ自国ノ製造係ル船舶ニシテ露国ト旗ヲ掲クルモノニ対シ殊ニ利益ト特典トヲ附與スルヿニ関シ適当ノ方法ヲ審議スルノ権能ヲ有スルモノトス

第十条　大蔵大臣ハ海軍省及検査院ト

46

3-2039

0190

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

104 通商

帆識ノ上露國製造ニ係ル船舶（第一条（ハ）項）ノ実速力ヲ確定シ又燃料費ヲ補給スル為メニ必要ナル船舶ノ積載数量ヲ調査シ（第四条及第五条）其他総テ本規則ノ実施手續ニ関スル細則ヲ編成発布スルヿヲ得

以上十ヶ条ノ法案ヲ規定シタル主義并ニ理由ニ関シ当局者ハ左ノ如ク説明シタリ

第一、帝國領土内ニ於テ海洋航行船ノ製造事業ヲ奨励スル為メニ海運業者ニ一定ノ特典ヲ附與シ外國ノ船舶ヲ注文スル場合ヨリハ数等ノ利益ヲ得セシムルノ條件ヲ定メ彼等ヲシテ漸次内國製造ノ船舶ヲ購入取得スルノ観念ヲ惹起セシムルヿ

第一条ノ但書ニ於テ政府カ貸下金ヲ私立銀行ニ引当トナス為メ禁シタル理由ハ貸下金ヲ抵当トシテ船舶ヲ製造シ得ヘキ融通法ヲ豫防スルニ在リ

第二、従来ノ奨励法ハ特典ノ範囲ヲ定メルニ方リ内外國ニ於テル造船費ノ差額ヲ精シク調査シテ國庫ノ負担スル負擔ニ属スル不消却補助金額ヲ規定スルヿヲ其主眼トセシカ本案ハ第一着ニ此ノ意見ヲ排除セリ何トナレハ輕速数年間此ノ方針ニ據リテ実行シタル成績ハ何等ノ好

3-2039
0191
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

105 通商

結果ヲモ挙ケス而シテ諸外国特ニ佛蘭西ニ於ケル実歴ハ斯ノ如キ方法ヲ以テ補助金ヲ消費スルモ其希望スル所ノ造船業ノ発達ニ対シテハ何等実効ヲモ奏シ得サリシヲ証明スルニ足レハナリ故ニ補助金ヲ附與スルヨリハ寧ロ内外国ニ於ケル造船價格ノ差費ヲ標準トシ之レニ超過スル費本金ヲ貸下ケルノ法ヲ規定スル方便且適切ナルニ如カス而シテ仮リニ此貸下金ヲ露国製造船ノ價格百分ノ五十ト規定セハ之レヲ以テ為運業者カ外国ヨリ船舶ヲ購求スルト露国内ニ之レヲ注文スルトノ差ヨリ生スル所ノ必要金額ヲ填補シテ尚ホ餘裕アリ

第三、貸下金ハ露国ニ於テ製造セシ且ツ其船舶ヲ竣工後一定ノ法式（船舶法第三条）ニ合格シタル者ニ対シ其船舶ヲ抵当トシテ下附スヘキ規定トス蓋シ本案ノ特典ハ造船業ノ何レノ場合ニ於テモ適用セラルヘキヲ以テ苟モ斯業ニ従事スル者ハ現在ノモノト新設ノモノトヲ問ハス又ハ他人若クハ会社ノ別ナク同一ノ道格ヲ以テ之レカ利益ヲ享受スルヲ得尤モ現ニ斯業ニ従事スル者ハ其特典ノ利益ヲ享受スルヲ他ヨリ一層大ナルベキハ勿論ナリトス

第四、船主ヲシテ貸下金ノ賠償ヲ容易ナラ

在外公館

3-2039

0192

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

106

通商

シムル為メニ個ノ方法ヲ設ケリ

(一) 貸下金ノ償却ハ二十ヶ年以内トシテ貸下ハ無利息ナル事

(二) 船主ノ負擔ヲ軽カラシム為ノ船舶保険料ノ一部分(即チ船舶清算價格ニ対シ船主ノ分ノ二)ヲ政府自ラ保険ノ責ニ任シ船主ヲシテ保険料トシテ一ヶ年船舶該清算價格ノ百分ノ二ヲ支拂ハシムル事

本項ニ基キ賠償法ヲ試算スルニ船主ハ少シモ損失ナク容易ニ貸下金ノ消却ヲ終ラシ得ベシ

第五、以上掲示セル奨励ノ外同法案ニ於テハ尚ホ内国製造ノ船舶ニ依リ内国産品ノ輸出ヲ保護奨励スル為メ該船舶カ消費スル所ノ露国産燃料ノ價格ノ二分ノ一ヲ政府ヨリ補給スルノ法ヲ設ケタリ此方法タルヤ航海奨励金トシテハ甚メ僅少ニ似タリト雖モ一露国産燃料ヲ使用セシメ一有益ナル貿易ノ発達ヲ期スルニ在リ即チ外国ヘ輸出ノ場合ハ船舶ノ積載量四分ノ三以上又外国諸港ヨリ輸入ノ場合ハ積載量二分ノ一以上ノ貨物ヲ搭載スルヲ必要条件トセリ又海路我北部諸港ヘ内国産ノ燃料鑄鉄、生鉄及製塩等ヲ輸送スルノ便宜ヲ計ル為メ露ニ於テ特典ノ範囲ヲ擴張シテ黒海及波尔的海諸港間ヲ航行スル沿岸航行ノ船舶ニモ均シク其利益

3-2039

0193

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

107

ヲ享有セシムル1ヲ規定セリ但シ此ノ場合ニ於テハ該船舶ハ前記物品ヲ満載スルヿヲ要ス

第六、本案奬励法ヲ施行スルヿタ為メニ国家若干ノ支出ヲ要スルハ固ヨリ免レ難シト雖モ比較スレハ往前ノ造船及航海奬励金額ト比較スルトキハ寧ロ少額ナリトス今マ本法ニ依リ国庫ノ負担ニ帰スヘキ費途ヲ約言セハ左ノ如シ

第一、船舶抵当トシテ出ス貸下金是ナリ而シテ此ノ金額タルヤ直接消費ノ性質ヲ有スルモノニアラズ何トナレハ是等ノ為メニ支出スル所ノ金額ハ年々償還金ヲ以テ順次填補スルヲ得ベケレバナリ唯タ純然タル国庫ノ負担トナルモノハ資本金ノ利息是ナリ而シテ此利息タルヤ甚シク巨額ノモノニアラサルノミナラス又数十年間ニ拂ヒテ割賦セラルヽ者ニシテ今ヲ其二十年間ノ支出額ヲ計算スルニ沿ヒ貸下金ノ金額ト相均シキモノトス

第二、政府保険ニ要スル費途是ナリ此ノ金額ハ最初ハ多額ノ支出ヲ要スル場合アルヘケレトモ内地ノ船舶製造熟ノ漸次増加スルニ従ツテ其費途ヲ節減スルヿ得ヘシ将来ハ船主ヲシテ保険料百分ノ二ヲ以テ充分其支出ヲ填補スルヲ得ベシ

第三、内国産燃料使用為ノ半額ヲ補助スルノ費途是ナリ此ノ金額ハ精査ノ結果

3-2039

0194

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

108 遺高

ニ據レハ船舶原價ノ百分ノ四乃至五ヲ超過スルヿナカルベク且ツ此費金ヲシテ生産的ノ効力ヲ有スルモノナリ蓋シ是レカ為メニ我炭業ヲ発達セシメ又鑄鉄及生鉄ノ供給ヲ増進スルヿヲ得ベケレバナリ尤モ内国燃料ノ價格一時暴騰スル場合ニハ外国炭ヲ使用スルモ尚ホ其船主ニ於テ其消費燃料半額ノ補給金額ヲ要ヲ得ルノ條款ヲ設クルハ亦タ立法ノ宜キヲ得タルモノト云フベシ

右ノ如ク法案ノ規定并ニ立案ニ関スル主義ヲ縷述シタル後当局者ハ尚ホ進テ本法制定ノ趣意ヲ説明シテ云ク

抑々本案ハ最モ丁寧ニ多数者ノ利益得失ヲ攻究審議シタル末起草シタルモノナリト雖モ金長願下商船社業ノ重要ナル関係ヲ有スルヿヲ認メラレ特ニ大蔵大臣ヲシテ立法ノ議院ヘ提出スルニ先チ閣議ニ附シ備ク世上ニ公布シ自業者ヲシテ本案ノ欠点及本則適用上発生スル弊害等ニ関シ覆蔵ナク其意見批評ヲ為スノ便宜ヲ與フルヿヲ希セラレタリ

次ニ奨励法案ヲ以テ海運業ニ関スル利益ノ範囲非常ニ宏遠ニシテ且ツ種々ノ事項ニ関係スルヲ認メ特ニ攻究審議ヲ盡シメリト雖モ尚或ハ恐ルル一私人ノ利益ノ関係ト抵牾スルヿナキヤヲ蓋シ本案ノ主義トスル所ハ国家経済ノ発達ヲ謀ルニ在リテ更ニ一個人

3-2039

0195

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

109 通商

事業ニハ個人ノ営業ニ関スル直接ノ利益ヲ期ス本法ノ主眼トスル所ニアラサルナリ然レトモ本邦ハ本法ノ主眼トスル所ニアラサルナリ然レ
ト者ハ調査事項ノ欠点ヲ補ハンカ為メ會長
顧下ハ近々内国商船籍ノ調査ヲ遂ケ又ハ
外国ニ於ケル運輸業ノ規則等ヲ参照
比較シ以テ本案ノ完備ヲ期セラル、由而シテ
本規則ニ対シ何人ヲリトモ意見ヲ吐露セ
ント願フ者ハ聖徒得堡同盟顧下宛ニテ意
見書ヲ発送スルヲ得ト云ヘリ

3-2039

0196

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp